

身延

戸栗川／南俣川・砥石沢

遡行日:10年4月11日

メンバー:三井(記)、野澤

この沢は去年の春に行ったのだが、入渓直後に事故が起きてしまい無念の退却となってしまった。

この事故で負傷した野澤君は、リベンジの意向を強く持っていたし、僕も戸栗川周辺の沢では唯一、とっていい未遡行の沢で、まして記録のない沢(登山大系には極、簡単に紹介されてはいるが。)という事で早々の再戦を考えていたので、沢シーズンの始まりを待って即、実行となった。

前回と同じ場所に車を止め、林道を少し歩いたところからいきなりの懸垂で沢床に降り立つ。巨石混じりの河原状の沢を辿って行く。所々に瀬があるが結構深く、まー、夏なら泳ぎも楽しかろうが今の時期、当然のように「捲こうか。」となる。暫く進んで行くと前方に釣師が…。沢では「ヒル」以上に遭いたくはない存在だがいるものはしょうがない。

近づいていって声をかけると人のよさそうな地元の親父釣師だった。

釣果を聞くと魚籠を見せてくれたがまずまずの良形のあまごが一匹と、明らかにリリースサイズのもの数匹入っていた。(こんなのリリースしろよ、とつい心の中で毒づく。)

しかしこの親父さん、誰から教わったものか小形のものはヤマメだが、良形のは背中の青い色が何とかでイワナだとのたまう。(でもね、魚体のパーマークと赤い斑点があってどっちも完全にアマゴやん。)

まー、長居は無用、先行させてもらう。

右岸に枝沢が入ってくると小滝が現れるようになりそれらは何れも釜を構えている。

巻けば簡単だがそれでは面白みがない。徐々に身体や気持ちが沢に馴染んできたのだろう、多少の濡れは覚悟して水線通しに進む。

大岩の混じった転石帯を淡々と越えて行くとまたしても釣師。(それも二人連れ。)

遡行していても、ゴミや高巻きしている時の踏み跡などで釣師の存在を意識させられたが、これも林道が近くを通過しているせいだろう。

間もなく二俣にでる。左俣は「ヒョウ沢」、右俣が「砥石沢」で滝を落としている。滝は連瀑状になっていて中々いい感じ。しかし、直登は無理で右岸側から巻いていく。沢に戻るとゴルジュとなり、小滝と釜が連続していて中々好ましい渓相で楽しめる。

ゴルジュを抜けると突然大きな堰堤が現れる。「えー、なにこれ？」

氣勢をそがれるもそれを越えると小広い河原となっていて、その先には赤い橋脚が見える。地形図で途中、林道が横切っているのは承知していたがその林道の橋だろう。

ところが遠くはないその橋にたどり着くまでに何と6個の堰堤があり興ざめも甚だしい。

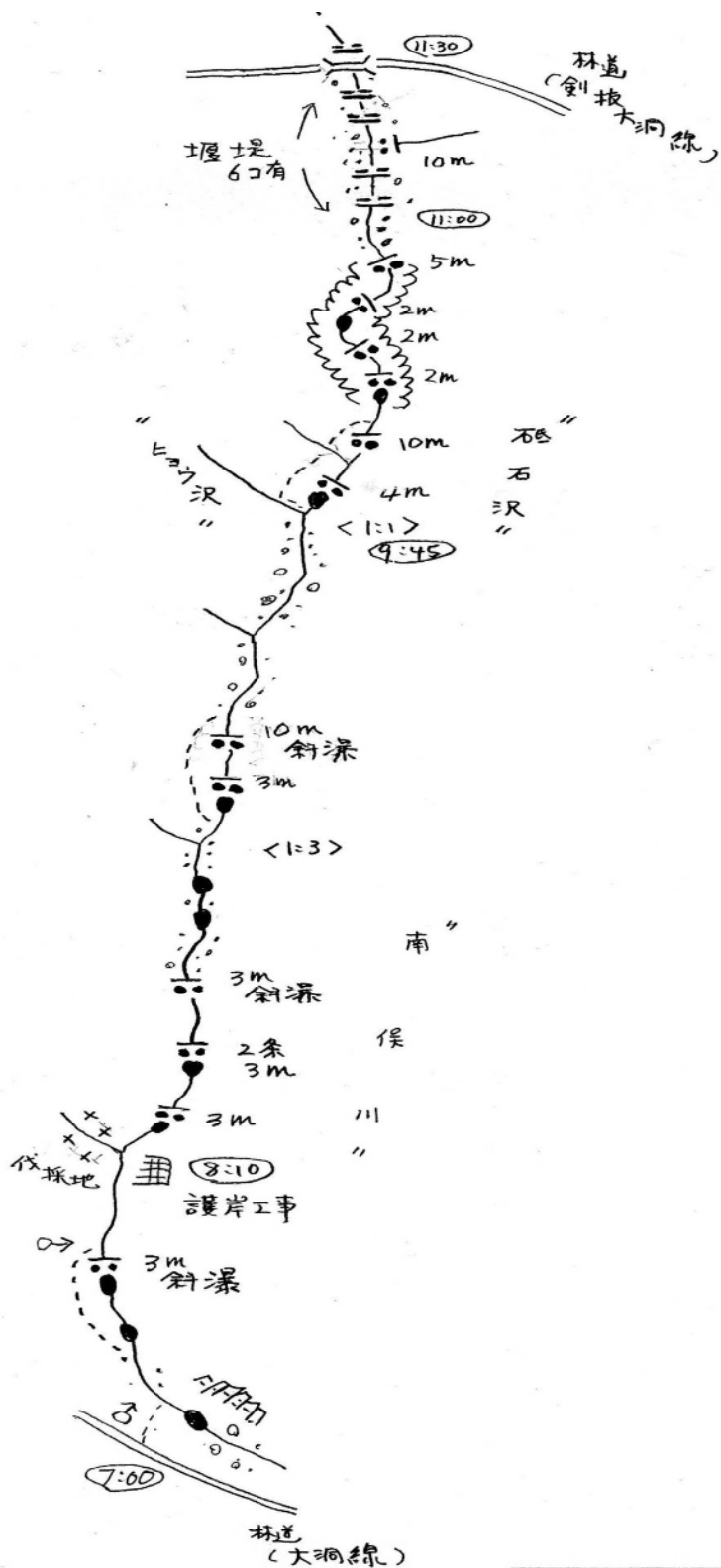
さて、橋までたどり着いたところで行程的には三分の二といったところだろうか。現在地は標高800mで、ピークは1700m。まだ900mも高度を稼がなければならない。車に戻ってくる時にはヘッドランプの世話になるかも…。

「まだ結構あるね。」という話から、どちらともなく「今日はここまででいいか…。」

稜線に上がらないでは如何にも中途半端で後ろめたい。それに沢はこの先何が現れるかわからない、それを確かめずに途中で止めてしまうその事に躊躇しない訳ではない。が、シーズンオフにここからパート2として稜線まで行こう、という話に気持ちの折り合いをつける。まー今日はこれでいいとしよう。

林道に上がりあれこれとダベリつつ下っていくと、2時間と15分で車に戻り山行をおえる。

天気予報では午後から雨になるかも…、という事だったが予報より好天で、シーズン初めの沢としてはまずまず、といったところで楽しめた一日だった。



'10年4月11日
 身延・戸栗川・南俣川 / 砥石沢